

# 飯能の家

講評

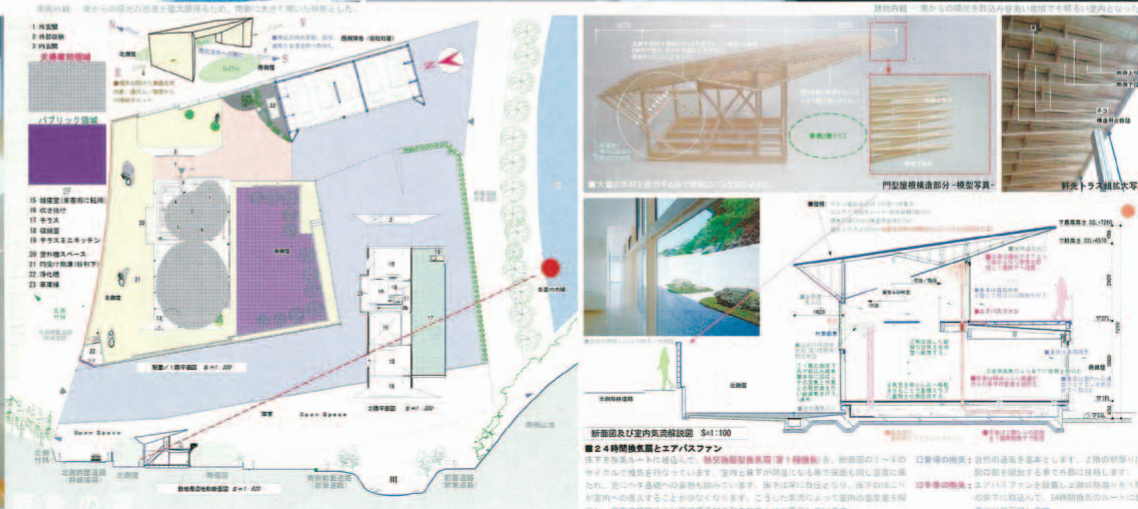
一見この建物の構造は鉄筋コンクリートか、と思われるような外観に驚きましたが、軒先の木造トラス工法により南側軒先を3.0m以上持ち出しでのデザインが特徴有る建物である。

広い土地に、又、建築基準法の規制がほとんどかからない地域での、のびのびとした空間の建築物であり建築コストはかなりかかっているが、夏、冬の太陽日影を計算しての軒先寸法で有ると思われる。環境データ的には建物規模に比べて家族構成が若干反比例するが、冬場の熱回収も上手利用している。

(審査委員：佐藤 啓智)

データ

- 所在地 ■ 飯能市
- 構造・階数 ■ 木造・2階
- 敷地面積 ■ 693.52㎡
- 延床面積 ■ 230.46㎡
- 建築面積 ■ 180.76㎡
- 完成年月 ■ 平成18年5月
- 総工事費 ■ 約7,500万円
- 居住者構成 ■ 15歳以上65歳未満:4人
- 設計者 ■ 栗林賢次建築研究所  
代表 栗林 賢次
- 施工者 ■ ノザワ建設株式会社  
代表取締役 野澤 敏之



住まい手から一言

夏場にクーラーをつけているが、冷気が逃げにくいようで、光熱費が高くなく、快適に暮らしている。また、以前の住まいでは、周囲がこんなに美しいという認識が持たず、建替えに際して新たな発見であった。